

科目名	博物館資料保存論			科目コード	5211
開講学科	学芸員課程	単位数	2	形態	講義
教員名	伊藤幸司				
授業の目的及びテーマ					
博物館等展示公開施設において資料（文化財）の活用・保存を図るには、それぞれの材質や製作技法、状態等を科学的に把握せねばならない。更にその結果から適正な処置を判断するには、調査・修復・管理等に関する基礎的な知識が必要である。当科目では保存科学を通して文化財科学の基礎的な知識を理解する。					
授業概要					
保存科学的な見地から文化財の保存修復・活用にかかわる講義を行う。学芸員の場合、資料保存について専門家に依頼すべき事も多いが、何をどのように行うべきであるのか判断する基礎知識が必要であるため、「文化財保存の意義を明確にし、取り巻く保存科学的調査・研究に関わる方法について理解を図る」「これまでに行われてきた資料の保全・修復の例を解説し、有効性や問題点などを検討することにより基礎的な能力を育成する」ことに主眼を置く。					
授業計画					
第 1 回：導入資料の保存と保存科学ーその歴史と役割					
第 2 回：科学的調査方法Ⅰ 科学的な調査の基礎					
第 3 回：科学的調査方法Ⅱ 外観の調査					
第 4 回：科学的調査方法Ⅲ 構造の調査					
第 5 回：科学的調査方法Ⅳ 材質の調査					
第 6 回：科学的調査方法Ⅴ 総合的調査の事例					
第 7 回：ケーススタディ 科学的調査の実際					
第 8 回：材質・技法の調査と保存Ⅰ 金属製文化財の調査と保存①					
第 9 回：材質・技法の調査と保存Ⅱ 金属製文化財の調査と保存②					
第 10 回：材質・技法の調査と保存Ⅲ 木製文化財の調査と保存①					
第 11 回：材質・技法の調査と保存Ⅳ 木製文化財の調査と保存②					
第 12 回：材質・技法の調査と保存Ⅴ 石製文化財の調査と保存					
第 13 回：資料の保存と活用 遺構の現地保存と展示					
第 14 回：資料の保存と活用 以降の移築と保存、展示					
第 15 回：実例の解説と検討 文化財を取り巻くリスク 保管環境					
テキスト	「出土鉄製品の保存と対応 考古学ハンドブック 3」 「遺物の保存と調査」 「文化財保存環境学 第 2 版」		参考文献		
評価方法：					
課題 2 課題による					